

令和3年 第4回定例会

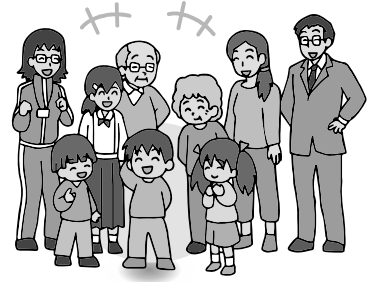
以下の3項目について、一般質問しましたので、主な内容を報告します。

1) 地域コミュニティ活性化について

本市でも、**核家族化や個人の価値観の多様化**などによって、**地域を支える人材が不足し、住民同士の交流やつながりが希薄化**しています。自治会加入率や自治会数が年々減少する中、本年度に入り、自治連合会において「**自治会・町会活性化策検討プロジェクトチーム**」が**発足**し、鋭意議論されています。特に**自治会の負担軽減**については、以前より要望し続けており、是非、実現して頂くことを要望しました。

また、コロナ禍において**自治会活動にも制限**があり、**地域活性化事業補助金の執行率も低い**状況です。この補助金は、小学校区単位の連合自治会として活用されますが、**単位自治会が実施する事業に対して活用**出来るよう、コロナ禍での短期的な施策という観点からも、見直すべきと考えます。

地域コミュニティの衰退は、**地域の防災力を低下させる懸念**もあります。自治会が存在しない地域も増える中、自治会に入れない、または、入っていない方々を含めた**地域の活性化策を包括的に進める必要がある**と考えます。現在、様々な分野で活動されている団体が存在する中、今こそ、**有機的に連携させる仕組み作りが必要**ではないでしょうか。地域コミュニティの促進や活性化に関する条例の制定も視野に入れ、是非、他市での先進事例も参考にしながら、検討すると共に、「**つながりのまち摂津**」を実現すべく、更に一步踏み込んだ取り組みを要望しました。



2) 災害に強いまちづくりについて

「**災害に強いまち**」とは、今後発生が想定される大規模災害から**まちや人命を守り、被害を最小化**できるまちであり、**ハード整備とソフト施策の一体的な取り組み強化**が必要です。本市は、昨年6月に、新型コロナウイルスと水害に備えた分散避難を鑑みた、**摂津市オリジナルセパレートメソッド**を打ち出し、様々、取り組んでいます。特に水害時、市民の方々に、安全且つ確実に避難してもらう為には、**平時より避難先の検討や避難経路の確認**などを行って頂くよう、本市として、**丁寧な働き掛けが必要**と考えます。

自力で広域避難出来る方ばかりでなく、高齢者や障害者など避難時に支援が必要な方々も本市にはお住いであり、特に、水害の危険が迫った際に、広域避難を働き掛けても、避難先の当てがいない方や、要援護者については、**遠方への避難が難しい**と考えます。そういった観点からも、市の方針である**高台まちづくりや河川防災ステーション**が、**要援護者の避難場所としても機能することを期待**しています。広域避難の取り組みや高台まちづくりの位置付けについては、今後、市民にしっかりと示す必要があることから、**地域防災計画に反映させる必要**があります。

水害時と地震時では災害リスクも異なり、避難先や避難所での対応も異なると考えます。住民自らの判断で**適切な避難行動を取ることが重要**であり、市としても、ケースに沿った**具体的な避難方法**について、予め示すべきと考えます。また、避難所についても、災害種別や各施設に応じた**避難所運営マニュアル**を作成する必要がありと考えます。真に災害に強いまちづくりの実現に向け、着実に取り組むよう、要望しました。



3) 烏飼地域のまちづくりについて

本件は、毎回取り上げておりますが、先日、第5回目の烏飼まちづくりランドデザイン策定委員会が開催されました。**残り3回で答申を向かえる**状況ですが、深掘りした議論が展開され、**市民の意見が反映された内容となるのが危惧**されます。**中長期的な事案は答申後においても検討が必要**であり、現在の**専任部隊を組織として存続させるべき**と考えます。また、庁内の体制のみならず、エリアマネジメントの観点から、**地域と一体となって課題解決に取り組むべく、まちづくり協議会を設立**するなどの**仕組み作りが必要**と考えます。

また、**烏飼地域の活性化・魅力化**に向けて、大きな鍵となるのは、「**教育の魅力化**」と「**交通利便性の向上**」であると考えています。

「**教育の魅力化**」について、**学校を核とした地域コミュニティが果たす役割**は、今後、益々重要となります。烏飼地域における高齢化の進展を踏まえ、**「少子化」と「高齢化」の合理的な解決**を図ることが出来れば、**地域で子供を育てる環境作り**に繋がると考えます。**教育委員会と市長部局が一体となって、魅力ある教育環境作り**を進めるよう、要望しました。

「**交通利便性の向上**」については、細かい交通手段に関するのではなく、**行政と交通事業者との役割分担や、交通結節点の強化**など、まずは**市としての方針を固めるべき**と考えます。市全体としての方針を示した上で、具体策を検討すると共に、**市民の方々の声をしっかりと聞いて頂き、実態に即した施策**に反映頂すよう、要望しました。

この烏飼地域のまちづくりにあたっては、安全・安心、すなわち、**防災をベースとした取り組み**を展開することになるかと考えます。6月議会において、「**防災型道の駅**」を提案しましたが、ほぼ同時期に、国交省では全国から「**防災道の駅**」

として初めて39駅が選定され、防災拠点としての役割を果たす為の**重点的な支援**を行うこととなりました。

本市も、高台まちづくりの観点から、**防災型道の駅を検討**してはどうか。烏飼仁和寺大橋からのアクセスも考慮し、**有事は防災拠点**として、**平時は、地域資源を活かした「にぎわいづくりの場」として**、ここに交通結節点を設けることで、**利便性向上**も図れます。是非、夢の実現に向け、色々なアイデアや発想を取り入れ、また、市民・企業、各種団体と連携・協働しながら、**魅力ある烏飼まちづくり**に、鋭意取り組むよう、要望しました。

